



セルフメディケーションの場として 地域の健康のために行動する薬剤師

「薬局＝処方箋をもっていくところ」。そんなイメージが強い保険薬局ですが、実は「地域の人が気軽に立ち寄り、処方箋なしに健康相談やセルフメディケーションができる場所」でもあります。既存のイメージを変えるべく活動しているのが、西京区にあるゆう薬局の薬剤師Kさんです。

ゆう薬局が企画する講座のひとつに「絵本で脳活」があります。「花咲かじいさん」といった昔ながらの絵本をKさんが読み聞かせることで参加者の脳が活性化する、セルフメディケーションのひとつです。この薬局で初めて企画し、Kさんが地域の人に呼びかけてみたものの、初めてだけあって反応が芳しくありません。

「最初の一人が参加してくれば、あとの人は続くと思うのだけれど……」。

Kさんの話を聞いて、「私が参加します!」とすぐさま手を挙げたのが80代女性の司さん(仮)。司さんが手を挙げたのは、講座の内容への興味もありましたが、信頼するKさんの講座だからというのが大きかったようです。

す。司さんは糖尿病患者で、毎日のインスリン自己注射が欠かせません。実は以前、司さんはあるメーカーの新作の注射針を処方されたときに、うまく使えなかったことがありました。刺し方が悪いのか、何が原因なのか？

困り果てた司さんの代わりに、Kさんが状況を確認、針の仕様改善をメーカーに直談判したことがあったのです。その対応を見て、司さんはKさんに全幅の信頼を置いていました。そんな司さんの立候補が呼び水となり、希望者は続々と集まり、講座は大成功。参加者からは「認知症について学ぶことができた」「薬局が身近になった」「雰囲気がよくて楽しかった」との声が相次ぎました。

Kさんにとって、「絵本で脳活」講座の開催も司さんの代わりに直談判するのも思いは同じ。「ゆう薬局さんなら健康の悩みを親身になって解決してくれる。そう言ってもらえる薬局になりたいんです」。

地域医療の支え手として注目される保険薬局。ゆう薬局の薬剤師は患者さんのためにできることを、いつも考えているのです。



豆知識

セルフメディケーション

「自分自身の健康に責任をもち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と世界保健機関(WHO)で定義されています。

ゆう薬局グループ本部・宇野薬局

☎075-771-1690(本部)
📍京都市左京区浄土寺下馬場町106

🚶🏻‍♂️よりバス停は「錦林車庫前」